

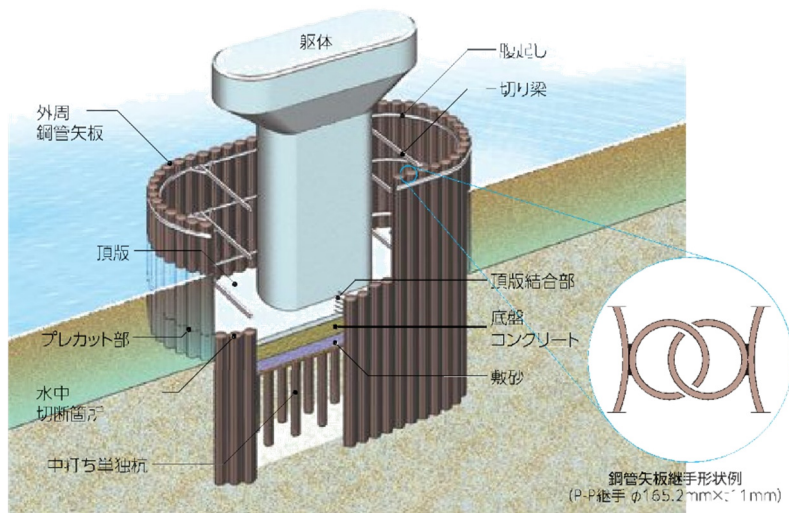


道路・ 鉄道	河川	海岸	港湾・空港・ 漁港	砂防・ 地すべり	農業水利	エネルギー
地震	津波	豪雨・台風	緊急工事	老朽化		

鋼管矢板基礎・綯鋼管高耐力継手

鋼管矢板基礎は、鋼管矢板を閉鎖形状に組合せて設置し、鋼管矢板群が一体となって挙動することで、高い水平抵抗・鉛直支持力が得られます。

また、仮締切り兼用とすることで、工事占有面積を小さくし、工期・工費の低減が図れます。



■ 基準・公的認証

- (公社) 日本道路協会
道路橋示方書・同解説Ⅳ 下部構造編
(平成29年11月)
鋼管矢板基礎設計施工便覧
(平成9年12月)
- (公財) 鉄道総合技術研究所
鉄道構造物等設計標準・同解説
基礎構造物
(平成24年1月)

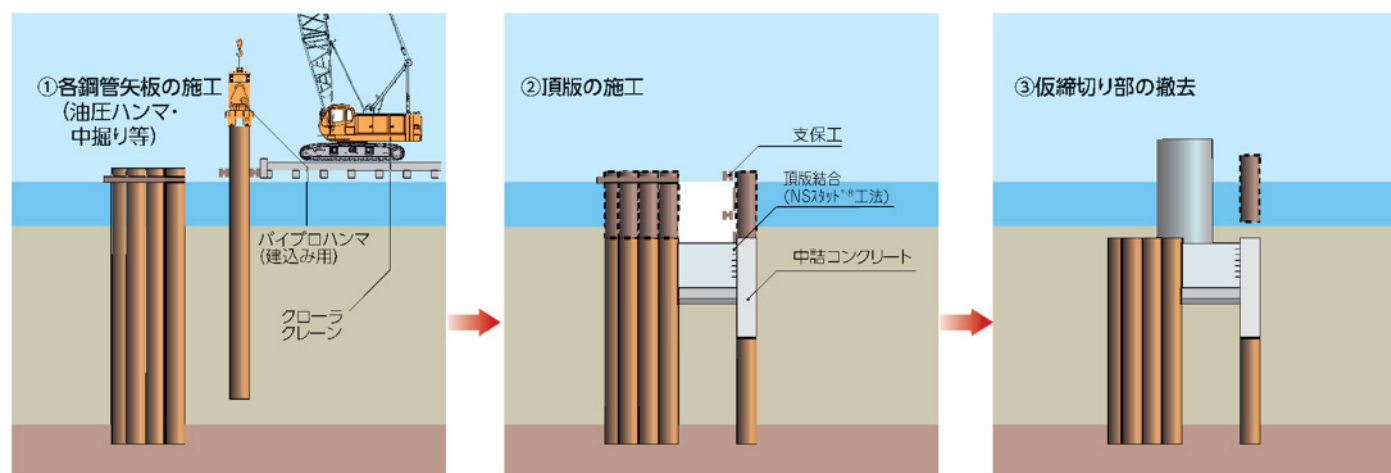
【特長】

- ① 大水深・軟弱地盤でも施工が可能です。
- ② 仮締切り兼用とすることで、**工期・工費の削減が可能**です。
- ③ 大きな水平剛性・支持力が得られると同時に、**占有面積を小さくすることが可能**です。
- ④ 周辺地盤への影響が少なく、**近接施工が可能**です。
- ⑤ **既設橋梁の耐震補強**としても適用できます。

● 施工事例



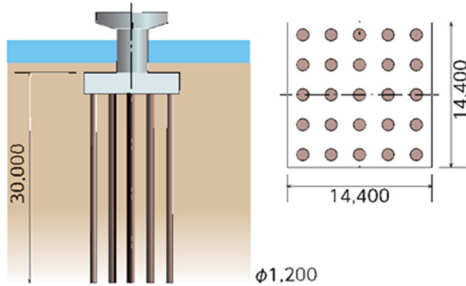
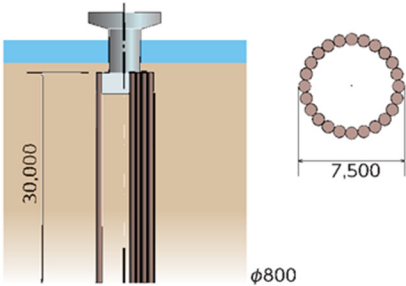
【鋼管矢板基礎の施工(仮締切り兼用型)】



適用効果事例

占有面積の低減

鋼管矢板基礎は杭基礎に比べて剛性が大きいことから、基礎寸法を小さくすることができ、建設残土の低減・工期の短縮を図れます。

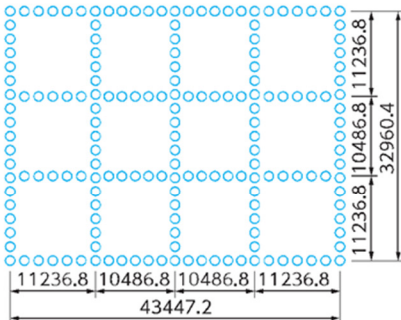
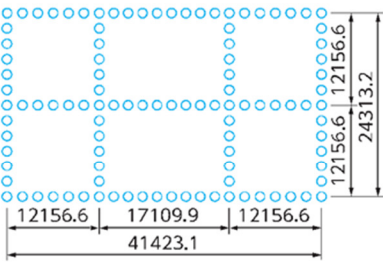
	場所打ち杭	鋼管矢板基礎
形状図		
基礎面積	207.4m ²	44.2m ²
占有面積	基礎面積+仮締切り部面積	基礎面積

高耐力継手の採用による基礎のコンパクト化

基礎形状が変位により決定する場合は、せん断耐力の高い継手を用いることで、平面形状をコンパクトにすることができます。

	従来継手	編鋼管高耐力継手
項目		
せん断耐力 (kN/m)	常時 100 レベル1 133 レベル2 200	570 760 1,150
せん断剛性 (kN/m ²)	常時 600,000 レベル1 1,200,000 レベル2 1,200,000	630,000

設計事例

	従来継手	編鋼管高耐力継手
平面形状		
鋼管矢板本数	175本	106本
基礎面積	1,432m ²	1,007m ²

地盤条件：軟弱地盤 (N<2) 30m程度 荷重条件：長大橋 (スパン450m程度)

＜ご注意とお願い＞ 本資料に記載された技術情報は、製品の代表的な特性や性能を説明するものであり、「規格」の規定事項として明記したもの以外は、保証を意味するものではありません。本資料に記載されている情報の誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますので、ご了承ください。また、これらの情報は、今後予告なしに変更される場合がありますので、最新の情報については、担当部署にお問い合わせください。本資料に記載された内容の無断転載や複写はご遠慮ください。本資料に記載された製品または役務の名称は、当社および当社の関連会社の商標または登録商標、或いは、当社および当社の関連会社が使用を許諾された第三者の商標または登録商標です。その他の製品または役務の名称は、それぞれ保有者の商標または登録商標です。